

健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会（第26期・第2回）議事録

日 時：令和6年6月27日（木）18:00～20:00

場 所：オンライン会議

出 席：玉腰暁子、秋葉澄伯、今中雄一、金子聰、川上憲人、久保庭雅恵、小林廉毅、田高悦子、
田中純子、中村桂子、野口晴子、野原恵子、芳賀猛、東尚弘、田淵貴大、橋本英樹（各委員、敬称略）
欠 席：磯博康、井上真奈美、瓜生原葉子、森晃爾（各委員、敬称略）

議 題：

（1）今期の体制について（玉腰委員長）

玉腰委員長より下記の体制について報告があった。

委員長：玉腰暁子、副委員長：森晃爾、幹事：田高悦子

喫煙対策：田淵貴大、公衆衛生人材育成：橋本英樹

（2）話題提供

1) 喫煙対策について（田淵貴大委員）

資料にもとづき話題提供があり、以下のとおり質疑応答ならびに意見があった。今期、意思の発出に向けて、以後、メールで検討を行うこととなった。

- ・日本学術会議としての意思の伝え方・提言？/ターゲットオーディエンス？/何を伝えるべきか？
→マルチチャンネルで伝える/医師/喫煙対策が実効的であること
- ・提言、見解、報告等、意思の表出の種別別ごとにフローが異なるため、種別によっては上位の委員会等や他の分科会、ターゲット等とのコンタクトや意見交換（発出の前後）が早急に必要では？
- ・意思の表出先、ターゲットを決めておくことが特に重要、かつ表出した意思をどこにどのように活用してもらうかについても検討しておくことも必要では？

2) 人材育成について（橋本英樹委員・中村桂子委員）

資料にもとづき話題提供があり、以下のとおり意見があった。今期、意思の発出を行うか否かを含め、引き続き、メールで検討を行うこととなった。

- ・公衆衛生人材とは？例えばコロナパンデミックに対応しうるような疫学等専門的人材？あるいは、全般的な人材？
- ・公衆衛生人材については、コロナパンデミックで社会全体にその認知度は高まったと思われるので感染症に寄せていくことも一つ。
- ・公衆衛生人材については、感染症のみではなく、これからの社会で求められる課題、例えば、災害や介護等、幅広にしたほうがよい。
- ・日本型 SPH 院生の背景は、1/3：医師、1/3：保健師、看護師、歯科医、リハ職、1/3：ノンライセンスで多様な印象、このことを踏まえる必要がある。
- ・今日の公衆衛生、これからの公衆衛生に対し、社会から何が求められているのかについて、議論しておく必要がある。

・歯学教育（歯科医）、獣医学教育（獣医師）、看護学教育（保健師助産師看護師 3 職種）それぞれにおける人材育成も踏まえる必要がある。公衆衛生人材の出口戦略も必要。

・意思の発出に際しては、学術会議の関係法規集を確認し、ア）個別分野のみに関わり学協会等で代替可能ではないか。 イ）読者・名宛人を明確にして立案しているか。 ウ）関係する市民や団体、関係機関などとの意見交換の場を設けているか。 エ）異論に対する公平な取り扱いがなされているか。 オ）グローバルな議論の状況に十分な目配りがなされているか。について確認が必要。

（３）今期の進め方（計画）

以下のとおり、了承された。

1) シンポジウムの開催

「サステナビリティな社会を創るために公衆衛生はどうあるべきか」

日時：10 月 30 日（水）15:25－17:00

場所：札幌コンベンションセンター（〒003-0006 札幌市白石区東札幌 6 条 1 丁目1-1）

趣旨：今後の Public Health にはヘルスケアサイエンスの範疇に収まらないものが必要であり、様々なセクターとコラボレーションすることが求められることに学会員が気づく。つなぐ人を育成する必要性を理解する。

座長：橋本英樹先生（東京大学大学院医学系研究科）、
中村桂子先生（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科）

シンポジスト（順不同）：

- ・佐々木周作先生（大阪大学、感染症総合教育研究拠点）
- ・戸津崎貴文先生（PwC Japan 合同会社産業医）
- ・野口晴子先生（早稲田大学 政治経済学術院）
- ・中村桂子先生（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科）

2) 「国民の健康維持・増進に資する食品制度に関する提案」の表出

3) 「喫煙対策」における意思の表出にむけた検討（メール会議）…田淵貴大委員を中心に

4) 「人材育成」における意思の発出を行うか否かを含めた検討（メール会議）…橋本英樹委員を中心に

（４）その他

次回以降の委員会予定

- ・9 月 4 日（水）18:00－20:00 オンライン開催
- ・10 月 30 日（水）11:20－12:00 ハイブリッド開催（札幌コンベンションセンター）